

車手・列車給仕・荷役手等それぞれ任務を異にする職種があるので、運用の便と業務能率とを考慮して、同種類別の列車が組み合わされる。このために通称客専行路、荷専行路あるいは列車手行路と呼ばれる、職種ごとの乗務行路が編成されるのが通例である。乗務行路はその組方によって乗務の難易・乗務員の所要数・乗務旅費等に影響するところが大きいので、列車の始発・終着時刻、折返し接続等の関連において勤務に無理の生ぜぬよう、かつ便乗を伴う行路、S字形となる行路は極力これを避け、また外泊行路も必要最少限度にとどめる等、要員および旅費の合理的使用と、乗務員処遇とを考慮合わせて、適正な行路が組まれることが要請される。(行路表前ページ)。(秋田 豊)

しょうめいきどうばん 照明軌道盤 配線図上の灯によって、線路上に列車または車両の有無を表示するもの。トラックダイヤグラムまたはトラックモデルともいう。

列車または車両の運転がひん繁で、監視の困難な場合等に取扱者の補助設備として設けられる。ただし継電運動機を設備する箇所においては、制御盤がこれを兼ねる。

盤面には関係範囲の線路図・信号機・標識・転轍(てんてつ)器その他必要なものが図示され、線路は軌道回路ごとに塗色を異にして判別を容易にし、その線路上に表示灯が取り付けられている。表示灯には普通6V8Wの信号電球を用い、表示灯変圧器によって電源を供給し、軌道継電器の落下接点を通じて点灯される。(前ページ写真)。(尾松広一)

しょうもうでんきてつどう 上毛電気鉄道

1 事業者の概要

名称 上毛電気鉄道株式会社、本社 群馬県前橋市一毛町、資本金1,000万円、おもな事業 地方鉄道業のほか一般乗合旅客自動車運送事業路線52km、一般貸切旅客自動車運送事業。鉄道従業員207人、保有車両 電動客車9、客車5、貨車7両。



沿革 大正13・6 前橋市・桐生市間とその中間にある大胡町から伊勢崎市經由高崎線本庄駅に至る電気鉄道敷設の免許を受け、同15・5 資本金400万円の会社を設立した。免許線中前橋・桐生間は昭和3・11から営業開始したが、大胡町・伊勢崎市・本庄駅間は経済界の不況のため、資金調達不能で、昭和9・1 免許を失効した。

2 運輸概況

年 度	昭和 28	29	30
旅客輸送人員(千人)	5,973	6,047	6,236
人 キ ロ (千)	59,161	59,026	61,093
貨物輸送トン数(千t)	20	19	18
トン キ ロ (千)	265	248	232
旅客収入(千円)	88,809	88,257	88,913
貨物収入(〃)	3,877	3,584	3,554
運輸雑収(〃)	1,688	1,789	1,893
収入合計(〃)	94,373	93,630	94,360
営業費(〃)	80,093	84,826	86,918
営業利益(〃)	14,280	8,804	7,442
営業係数(%)	84	91	89

3 地方鉄道線

開業線 群馬県下において両毛線前橋駅に連絡し、中央前橋・

西桐生間25.4km、単線で動力は電気、軌間は1,067m、旅客・貨物運輸の鉄道である。大正13・6・7 免許、昭和3・11・10 運転開始した。

4 沿線の観光地

赤城山(大胡駅)、高津戸峽(新大間々駅)。(志村幹雄)

しょうもうひん 消耗品 その用途が確定した場合における物品の性質による分類であり、国鉄では決算品の一部に属するものである。消耗品に該当するものとしてはつぎのものがあげられる。

1 調度用品のうち石炭・練炭・木炭・ガソリン・グリース等の燃料および油脂類、薬品・用紙帳表・ほうき・蚊取線香等の諸用品、すなわち備品以外の決算品。

2 工事用品のうち、と石・きり・はさみ・もっこ・ペイントばけ・紙やすり・用地杭等の諸用品に該当する決算品。

これらのものは1回ないし数回かぎりの、または短期間の使用により消耗し尽されるものである。なお燃料および油脂類は事実上消耗性の物品でありながら、調度用品についてのみの消耗品の範囲に属し、工事用品の場合に消耗品となっていないのは、消耗品は引渡し払い(工事担当者に引渡したときはただちに決算手続をする)となっているが、工事・工作・採炭・発電等広い意味の工事の範囲において使用される燃料および油脂類には主として動力源に充当される石炭類・コークス・燃料油、および機械等の潤滑用としてのグリース・マシン油等があり、とくに前者の量は大きく、これを消耗品として引渡し払いとすることは、多量の決算品を保有することになり、発生主義の原則にもとることになるので、消耗品の範囲に含めず工事材料と同様に取扱うことにしている。しかし引渡しを受けた当日中に使用して、残品を生じないような場合等には、事務簡素化の意味からも例外的に引渡し払いとすることを認めているので、このような場合には事業上消耗品が存在することになるのである。(市原高之)

じょうやせん 常野線 栃木県芳賀郡茂木町と茨城県久慈郡大子町とを結ぶ国鉄自動車路線であって、所管する自動車営業所は栃木県那須郡烏山町にある。

1 区間・キロ程および沿革

常陸大子・茂木	55km	昭 9・3・31 開業
常陸大子・烏山		昭 9・8・1
烏山・茂木		昭 27・6・20
大内・大那地	6	昭 28・11・28
馬頭・渡戸	8	昭 28・11・1
馬頭田町・烏山仲町	12	昭 26・2・5
芳賀黒田・市橋	10	

2 営業範囲

旅客・手小荷物および貨物の取扱をする。

3 使命

鉄道代行路線であり、真岡線・烏山線と水郡線とを短絡するほか、沿線地方産業文化の発展助長を使命とする。

4 特長

沿線那珂川はあゆ・う



なぎの名所として知られる。栃木・茨城県境の明神峠からは、日光男体山・塩原の高原山・那須ヶ嶽等の眺望に富む。線名は経過地の国名常陸(ひたち)・下野(しもつけ)の1字ずつをとっ